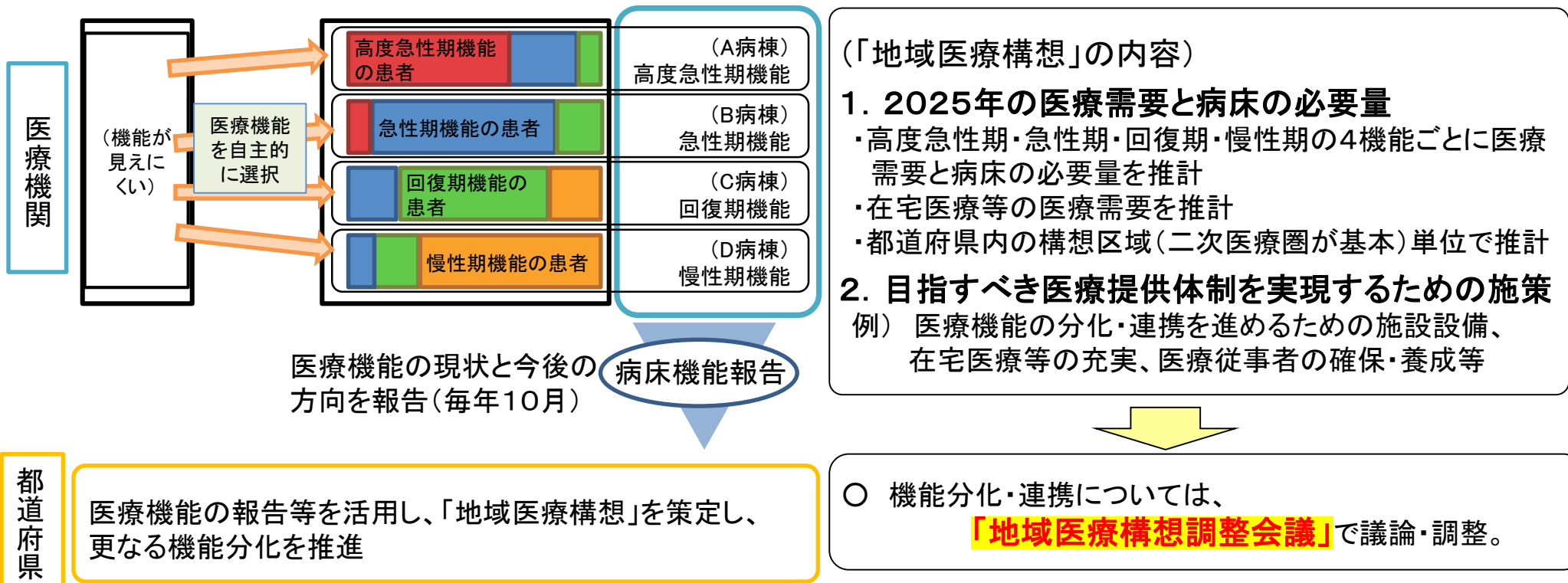


京都府地域包括ケア構想について (京都府における地域医療構想)

地域医療構想について

- 今後の人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口の減少を見据え、質の高い医療を効率的に提供できる体制を構築するためには、医療機関の機能分化・連携を進めていく必要。
- こうした観点から、各地域における2025年の医療需要と病床の必要量について、医療機能(高度急性期・急性期・回復期・慢性期)ごとに推計し、「**地域医療構想**」として策定。
その上で、各医療機関の足下の状況と今後の方向性を「**病床機能報告**」により「見える化」しつつ、各構想区域に設置された「**地域医療構想調整会議**」において、病床の機能分化・連携に向けた協議を実施。



京都府地域包括ケア構想（地域医療ビジョン）について

【京都府地域包括ケア構想（必要病床数の国推計）】

2016年度時点

2022年度

2025年（国推計）

【許可病床】

29,690床

一般病床：78%
23,386床

医療療養病床：12% 3,451床

介護療養病床：10% 2,853床

【入院患者実態調査】

28,153床

高度急性期：17%
4,875床

急性期：42%
11,746床

回復期：9% 2,450床

慢性期：32%
9,082床

【病床機能報告等】

28,248床

※介護医療院へ転換数を含む

高度急性期：14% 3,911床

急性期：38%
10,709床

回復期：16% 4,620床

慢性期：23%
6,581床

介護医療院への転換：9%
2,427床

【2025年ビジョン】

29,957床

高度急性期：11%
3,187床

急性期：32%
9,543床

回復期：28%
8,542床

慢性期：29%
8,685床

※医療系への機能転換
※新たな類型への転換

※介護医療院への転換数は高齢者支援課調査より

病床機能報告の結果

	高度急性期		急性期		回復期		慢性期	
2014年	5,401	18.7%	12,528	43.3%	2,162	7.5%	8,816	30.5%
2015年	4,853	16.7%	12,386	42.7%	2,462	8.5%	9,305	32.1%
2016年	5,049	17.4%	11,787	40.7%	2,910	10.0%	9,213	31.8%
2017年	4,198	14.5%	12,284	42.4%	3,324	11.5%	9,139	31.6%
2018年	4,182	14.8%	11,849	41.8%	3,801	13.4%	8,488	30.0%
2019年	4,606	16.6%	10,546	38.0%	4,624	16.6%	8,006	28.8%
2020年	4,529	17.1%	10,787	40.8%	4,259	16.1%	6,858	25.9%
2021年	4,630	18.0%	10,704	41.5%	4,089	15.9%	6,368	24.7%
2022年	3,911	15.1%	10,709	41.5%	4,620	17.9%	6,581	25.5%
2025年（推計）		11.0%		32.0%		28.0%		29.0%

2019年（令和元年度）から定量的な基準の導入（京都方式）

⇒ 「地域急性期」

※地域急性期

サブアキュート機能（軽・中等症患者の救急受入れ機能）やポストアキュート機能（長期急性期患者や回復期患者の受入れ、治療機能）を中心に、回復期的な機能も含めて幅広く担っていく急性期病床

※介護医療院への転換数を除く

